

# 令和2年度 西東京市立碧山小学校 学校評価表

児童・保護者のアンケート結果を鑑み、4段階評価で教職員が自己評価を行う。

◎自分でよく考え工夫する子 ○ねばり強く前向きに取り組む子 ○人の立場に立って行動する子

プロの集団 チーム碧山！子どもの「やる気」育てます！  
児童が生き生きとかがやき、保護者が安心し・地域から信頼される学校

教職員の「数値目標」が妥当であれば4、評価が高すぎる・低すぎるの

評価についての理由を記述する。

- ・しっかり聞く子（人を大切にする）
- ・じっくり考える子（心を大切にする）
- ・はっきり話す子（自分を大切にする）
- ・力を合わせて活動する子（人とのかわりを大切にする）
- ・児童を理解し、最良な人的環境となれるようにかかわる教師
- ・指導方法と計画・評価、環境整備等を工夫改善して、着実に学習
- ・生活指導を行う教師
- ・学校組織の一員として協力
- ・協働して取り組む教師

方 策	前期学校自己評価				前期学校関係者評価		後期学校自己評価				後期学校関係者評価	
	努力目標	成果目標	学校の取組及び改善策		評価	記述欄	努力目標	成果目標	学校の取組及び改善策		評価	記述欄
確かな学力の向上	対話的な学びを重視し、探究的・問題解決的な学習を実践し、児童の自己解決力・学ぶ意欲の向上を図り、分かる授業を実践し、学力の向上を図る親身の指導ができたか。	3	3.5	「新しい生活様式」の中で、ガイドラインを守りながらペア学習やグループ学習を取り入れた。また、お互いの意見を聞き合い、それに対してどう思うかを伝え合う活動や、自分の考えを積極的に人に伝える活動も、様々な教科を通して実践してきた。話し合いのより良い方法を、今後さらに研修していきたい。	3.7	・コロナの難しい状況の中、クラスの友達との対話もきちんと取り入れられた授業だと思う。 ・様々な工夫をして、実施している。 ・アクティブラーニングの取組の中で、本当に個々の子どもにも理解が定着するようである意味アナログなまとめ方をしているのか？	3	3.2	前期に引き続き、「新しい生活様式」の中で、ペア学習やグループ学習に取り組んだ。まとめを子どもたちが考えていく授業のスタイルは定着しつつあるが、今後はさらに、めあても子どもたちが考え、より主体的に授業に参加することができるように、研修をしていきたい。	4	・子どもたちが主体的に授業に参加できる工夫をしている。 ・コロナ禍でのプログラムだが、通常に近い形で学習ができた。 ・新しい生活様式の中で主体的な授業ができるように考えている。 ・子ども同士の対話を引き出す先生の働きかけ、定着させるためのアナログな手を使った学習、リモートなど機器の利用、可能性は大きいですが、先生方のご苦労は大変だと思う。	
	授業を中心に、様々な教育活動を通して持続可能な開発目標（SDGs）の達成に取り組み、問題解決力の向上を図ることができたか。	3	2.9	昨年度に続き、SDGsを取り入れた校内研究に取り組んでいる。SDGsを意識した生活を送れるように、校内に掲示物を増やしたり、子どもたちと一緒にどうしたらよいか考える時間を設けたりしながら、問題を解決するためにはどうしたらよいかを考え実行できる力を育てていく。	3.5	・全てにおいて努力している。 ・来年の発表に参加したい。可能ならば。 ・SDGsの話が分かりやすかった。熱心に取り組んでいる様子があつた。 ・研究結果が楽しかった。 SDGsは何となくこなしてこなかったが、子どもが当たり前のように学んでいくことで、身に付いていくのは大切だことだと思う。	3	2.9	SDGsは子どもたちに定着している。高学年は、社会科などでSDGsと関わらせながら授業を進めることができるが、学年が低くなるほどなかなか関わらせにくい傾向にある。来年度は、そもそもどうしてSDGsが必要なのかという学習に全学年で取り組み、SDGsと関わらせながら授業を進めていけるような工夫を考えていきたい。	3.8	・研究授業の内容が工夫されている。もう少し高評価でもよい。 ・SDGsは子どもたちに提供したものの、保護者にはあまりよく伝わっていないのではと思われる。 ・SDGsをもっと理解できていないが、いかにできることなら進めたいと思える。 ・SDGsは、大人がどう社会を運営していくべきかの指針だと思う。子どもたちは生活の中でどういうところを自分のものとしているのか学年を見据えて指導していくこととよいと思う。 ・子どもでSDGsの言葉が出てきたとき、1年の始が仮面、学校でも思ったと言っていた。関心がもてるようになってきたと思う。	
豊かな心の育成	いじめをしない、させない集団作りを行うとともに、差別や偏見をもたせない学級経営、学年経営を行うことができたか。	3	3.8	「いじめは各クラス起こり得るものである」という意識で、全教員が児童の学校生活を見守ることは、今年度も変わりはない。今年度は、感染症に対する新たな差別意識に対する指導も折に触れて行っている。こういう活動を、年間通じて行い、「西東京市あったか先生」の取組を軸に、子どもたちの人権に対する意識を高めていく。	3.7	・各児童、保護者に対応している。 ・丁寧に見ている。 ・3つの感染症の考え方が、とても分かりやすかった。 ・意気込みを感じる。 ・子どもたちの顔がとても穏やかに思う。「いじめはダメ」をしっかりと教えてほしい。	3	3.8	いじめに関する研修やいじめ・虐待防止校内委員会を、来年度も今年度同様続けていく。また、学期に1回児童に行っているアンケートも引き続き行う。「いじめはどのクラスにも起こり得るものである。」だからこそ、「いじめは絶対に許さない。」という意識を全教職員が改めてもち、児童の学校生活を見守っていききたい。	4	・丁寧な対応をしている。 ・いじめは発生させない、芽は小さいうちに摘むという意気込みを感じる。 ・いじめは起こり得るものであることから、防止策もよいと思う。起こったときに対応方法を考える。 ・いじめは古くて新しい問題と考える。教職員の皆様の努力に感謝する。 ・先生への信頼感を子どもたちがもっていることがいじめを許さないことの基本だと思う。 ・いじめの芽を摘み取っていく意味でも、継続的に話合い、いじめは絶対ダメという意識をもたせている。	
	元気な挨拶、「はい」という返事を大切に、基本的な生活習慣の定着を図り、きまりを守る児童の育成に努めることができたか。	3	3.6	今年度から、挨拶運動の方法を変え、全学年が「挨拶リーダー」として取り組む計画を立てた。感染症対策のため、現在は代表委員が行っているが、子どもたちが主体的に取り組めるような工夫を、引き続き行っていく。子どもの基本的な生活習慣がしっかりと身に付くように指導を今後も行っていく。	4	・子どもたちが主体的に取り組める工夫がされている。 ・取組の成果が出ている。 ・校内で声掛けをすれば、挨拶が返ってくる。職員室の出入りのときも、しっかりと挨拶ができていて、気持ちが良い。	3	3.5	代表委員会の子どもたちが、挨拶をもっとできるようにしていきたいと考え活動を始めている。6年生も、卒業するに向けて挨拶をしっかりとしていこうと意識している。子どもたちの中に、挨拶に対する問題意識が芽生えている。子どもたちと一緒に、挨拶をする習慣が根付く方法を考えていきたい。	4	・子どもたちが考えた活動ができる環境を整えている。 ・学校外でも声を出して挨拶できるような指導を期待する。 ・子どもたちが主体的に挨拶を身に付ける努力が見られる。 ・全校の児童を守っているが、1年生の挨拶がしっかりとできてきた。 ・挨拶は気持ちが良い。一方で緊張しやすい子や苦手な子には慣れるのに時間がかかるかも。挨拶されたら無視しないが第一歩かも。 ・代表委員会が中心となり、低学年と一緒に挨拶運動を行っているところ。	
健やかな体の育成	コーディネーショントレーニングの取組や体育の授業での体力向上など、すすんで運動をする児童の育成に取り組むことができたか。	3	2.5	1学期は、コロナ禍の影響もあり、体育科の授業を思うようにできない状態にあった。2学期以降は、体育授業参観でしっかりと体を動かす活動に取り組むとともに、運動会での活動として、子どもたちがコーディネーションの取組を行う機会を設定し、様々な運動に取り組めるような環境を整えていきたい。	3.8	・様々な工夫をして、実施している。 ・体育授業参観が、とても素晴らしいかった。 ・体育授業参観の子どもの演技が、みんなきびきびとしていて素晴らしい。	3	3	2学期は、コーディネーショントレーニングを準備運動等に取り入れ授業を進めた。また、コーディネーション週間を設け、集中的に取り組む期間も作った。このような取り組みを今後も続け、体を動かすことの楽しさを子どもたちが味わえるようにしていきたい。	3.9	・工夫して実施している。 ・様々な工夫を感じている。 ・体を動かすことの楽しさに加えて、その必要性を一緒に考えている。 ・体を動かすことの楽しさがない。評価は高くてもよい。 ・先生方の工夫に感謝。外遊びが少ない子供時代を過ごしてしまつと、心身のキヤバが上がりやすいように心配。 ・様々な工夫をしてコロナへの感染対策を行いつつ体を動かすことの楽しさを味わえるようにしている。	
	児童の食物アレルギーに細心の注意を払うとともに、特別支援教育の充実を図るため、具体的な方策をもつなど保護者と協力して支援することができたか。	3	3.3	食物アレルギーに関する研修を年3回以上は行い、教職員がアレルギーに対する意識を高めるようにしていく。感染症対策もしっかりと行っていく。アレルギー対応は行っていく。特別支援については、担当が一人で抱え込むのではなく複数体制で組織的に取り組む今のやり方を、引き続き行っていく。	4	・個々に対応している。 ・特別支援の取組はありがたい。 ・続けてやってほしい。	3	3.9	食物アレルギーに関しては、来年度も引き続き研修を実施し、誤食などないように意識を高めていく。特別支援関係では、教員の研修を今年度は行った。特別支援に関して、保護者の方と教員との間に認識の隔たりを感じることも少なくない。特別支援教育について、学校側がしっかりと説明し、保護者と学校側が協力して考えていく必要がある。	4	・子どもたちが安全に安心して過ごせるための工夫をしている。 ・何事にも複数体制よくいたただけるのは安心できる。 ・隔たりについて詳しく話を聞きたい。 ・先生方の工夫と配慮に感謝。	
地域と歩む学校	地域の人材を積極的に活用し、保護者や地域が学校に寄せる思いや願いを受け止め、すばやい対応・親身の指導を日々行うことができたか。	3	3.2	外国語活動では、地域協力者の方とともに授業を進めているが、毎時間連絡を密にしてより良い活動となるように努める。また、いろいろと心配な状況だからこそ、保護者との連携を密にして、日々子どもたちに向き合うようにする姿勢を今後も続けていく。	4	・日頃から開かれた姿勢を感じる。 ・子どもたちに幅広い体験をしてもらいたいと思うので、いろいろなチャンスを生かしてほしい。	3	3.6	6年生の音楽授業参観を盛り上げるための準備や移動教室代替行事では、おやしの会の方にたくさんの協力をいただいた。外部との交流がなかなかしにくい状況ではあるが、地域の方の力を活用した授業や行事の計画を立て、学校・地域がともに子どもたちの成長を手助けできる体制を維持していきたい。	3.9	・困難な状況だが努力している。 ・コロナが収束したら、地域や外部機関への福祉活動や奉仕を積極的に取り組んでいきたい。 ・地域の方々と連携しながら力を活かすのもよいと思う。 ・地域と協働が一人として協力したい。 ・実情を聞きたい。 ・地域と協働が一層進みますように。 ・移動教室代替行事を速くから拝見した。子どもたちが本当に楽しそうに素晴らしい行事になっていた。	
	学校便り・学年便り・学校ホームページ等を通じて情報発信に努め、教育活動に対する保護者や地域の理解を深めることができたか。	3	3.1	今年度は積極的に学校から情報を発信するように努めた。再開後、子どもたちがどのように学校生活を送っているのかを伝えるように努めた。今後、急遽いろいろなことが決まる可能性がある。メール・ホームページ・手紙のそれぞれの利点を活用し、的確に情報を伝えられるようにしていく。	3.2	・情報が分かりやすく発信されているので、もっと評価は高くてもよい。 ・とても分かりやすく発信できている。 ・休校中のメール発信の努力は、もっと評価してもよい。 ・様々な考えから、学校や先生の考えや様子がよく伝わってくる。 ・HPにアクセスしやすい。 ・情報が分かりやすい。 ・HPに育成会の活動も載せていただき、ありがたい。	3	3.5	学校の情報を、ホームページ・メール・手紙などで伝えるようにしてきた。また、昨年度に引き続き校内研究だよりも配布した。来年度以降も、同じように情報発信をしていき、地域に開かれた学校を目指していく。また、どのような教育活動を行っているのかが分かるようにしていきたい。	3.8	・配信の頻度もよく分かりやすい工夫がある。 ・情報発信は増えているものの、学校公開がないので、代替手段を考えてほしい。保護者限定のHPで日々の様子をアップする等。 ・情報が分かりやすい。 ・こまめな情報発信に感謝。もっと評価してもよい。 ・学校からの情報を理解することが困難な保護者に対して理解の助けになるような仕組みができるようにと思う。	

4 4 4 4 4 4 4 4 4 4

4 4 4 4 3 4 4 3 4 3.778

4 4 4 4 4 4 4 4 4 4

4 4 4 4 4 4 4 4 4 4

4 4 4 3 4 4 4 4 4 3.889

4 4 4 4 4 4 4 4 4 4

4 4 4 4 4 3 4 4 4 3.889

4 4 4 3 4 3 4 4 4 3.778